

かずさ

日本ボーイスカウト
上総地区

32号

発行日
2016. 2. 1

発行：関口 陽市（地区委員長） 編集：運動拡大委員会（委員長 山本 勲）

第23回世界スカウトジャンボリー

テーマは「和」。世界中からスカウト仲間が集まり2015年7月28日から8月8日の間、山口県のきらら浜で、第23回世界スカウトジャンボリーが開催されました。この大会に千葉県連盟から日本派遣団0109隊（千葉第1隊）から0116隊（千葉第8隊）として8個隊スカウト250人と指導者35人、大会運営スタッフ97人、合計382人を派遣しました。この内、上総地区からの派遣者は、スカウト29人、指導者4人、大会運営スタッフ11人合計44人でした。スカウトたちは、連日のように39℃を超えるような暑さの中、しかもこれまで経験したことがない12泊という長期キャンプで、外国スカウトたちと交流しながら、全員病気や怪我もせず、無事帰宅しました。一回り大きくなったスカウトたちが、帰宅の途中で感じたことはどんなことでしょうか。



日本派遣団第113隊

隊長 一木 通夫

1971年静岡県朝霧高原で行われました第13回世界ジャンボリーから、44年後の今年7月28日から8月9日にかけて、山口県山口市阿知須のきらら浜で第23回ワールドスカウトジャンボリーが開催され、世界150

有余の国から約32,000人が参加し、日本からは約6,000人、千葉県より8個隊約320名が参加しております。上総・南総地区からは、指導者5名、スカウト36名が地元の応援・支援を受けて参加し8月9日に全員元気に帰る事が出来ました事を報告致します。

日本派遣団113隊は、今年の3月より4回に分けて準備訓練を行い、スカウトが地球規模で物事を考え「世界で活躍できる社会人」となるきっかけを得られるよう、「心構え」「知識」「技能」「世界と日本」という課題に取り組んできました。しかし、スカウトにとって12泊13日という長期

間のキャンプは、未経験のスカウトが多く、不安材料のひとつでした。

7月28日早朝、各方面よりバスに分乗し、一路山口県のジャンボリー会場へ出発致しました。現地の盛り上がりは想像以上で、ここは本当に日本なのだろうかと勘違いする位外国スカウトがすでに到着していて、早くも国際交流が始まりました。もちろん、話したり聞いたりする言葉は、全て英語です。

会場でのキャンプ生活は規則正しく、場外へ出るプログラム以外は普段と変わりません。しかし、連日の暑さや寝不足により、熱中症や夏風邪といった症状になるスカウトが出てきて、その対応に苦慮しました。しかし、スカウトの心は折れていません。

ジャンボリープログラムは場外と場内があります。場内プログラムは、「地球規模の課題に取り組む、GDV」「自国や他国の文化に触れて、異文化交流を通じた相互理解をする、カルチャー」「地球の自然と人間の調和に貢献し、最先端の科学技術について学ぶ、サイエンス」「日本は海に取り囲まれています。水辺の活動で安全対策や生命の起源である水の重要性について学ぶ、ウォーター」があります。場外プログラムは、「ハイキングに参加し、生態系の重要性、自然への畏敬の念を学び、チームワークの力を感じる、ネイチャー。今回は、酷暑のため中止となりました。」「地域の人々と交流をしながら、その地の文化、建築、衣装などを体験する、コミュニティー」そして、「スカウト達は広島を訪問し、戦争の悲惨さ、命の尊さを学び、70年前に起こった事を実感する事が出来る、ピース」等があります。

全てのプログラムが終了し、千葉に着きましたのは、8月9日、夜8時頃でした。全員無事に千葉に降り立つ事が出来ました。日に焼けて真っ黒になり、出発前よりは、たくましくなった気がします。多少においのする制服を着ていますが、堂々とした姿で立つ姿は、達成感と充実感と満足感にあふれ、更なる活動への可能性を見ることが出来ました。

これもひとえに、上総地区・南総

地区の御理解と御協力の賜と感謝しております。

この大会に参加することによって、「創造する柔軟な心」「挑戦する熱い心」「継続する強い心」を育み、更にひとつ「諦めない心」を備えたと確信しました。

この大会で、スカウトが更にたくましく成長した事も、重ねて報告致します。(市原1団)

23WSJに参加して

副長 北川 修次

今回、私は前半の副長として参加させていただきました。訓練期間中は勤務の都合で単身赴任のため、千葉へ帰ることがままならず、結局スカウト達との交流は一度しか叶わず、どうなるものかと内心、心配をしましたが一本隊長を始め、野中副長、石垣副長、土橋副長のご尽力で参加隊指導者の末席へ加えさせていただいたことに感謝しております。

前半、副長の着目点としては子供たちが世界ジャンボリーという普段のスカウト活動では経験できない、ある意味特殊な環境の中で如何にして円滑なパトローリングを行うかを配慮しました。それは隊や班内の人間関係、外国隊スカウトとの関係、野営生活やプログラム参加についての状況を細かく把握し、指導者及びグリーンバー間での状況分析、そして速やかな対応を実施することで、子供たちのストレスを軽減して前半の隊運営を軌道に乗せることでした。入場から数日が経ち、圧倒的な外国隊スカウトのパフォーマンスに対して、大人しい日本の子供たちが元気になるスパイスは無いかと思い提案した「連続歩調」を子供たちが快く受け入れてくれました。彼らは自主的に隊内へそれを広め、時に士気を高め、時に楽しみながら、口ずさみつつプログラムへ向かう姿がとても印象的でした。前半の最終日、一足先に千葉へ帰る私へのサプライズに子供たち全員で「連続歩調」を行い、送り出してくれたことが最高のプレゼントになりました。当初、私は「子供たちを23WSJに連れて行く」そんな考えでした。しかしそれは大きな間違いだと気づきました。「子供たち

が私を23WSJに連れて行ってくれた」と今は感謝をしています。最後に保護者の皆様、そして多くの関係者の皆様方のお陰を持ちまして無事に終了できましたことを心より感謝致します。(市原3団)

第23回世界スカウトジャンボリー

副長 土橋 一弘

“ジャンボリー”参加した経験をすると、次も必ず参加したくなり、その魅力は経験した者にしかわからないものであり、機会が合わなければなかなか参加することが難しいところですが、私はスカウト時代に2回、リーダーとして2回目、しかも今回は世界ジャンボリーに参加する機会に恵まれたことはありがたいことです。

今回は副長として半期(後半)だけの参加でしたが、スカウトとともに見たり経験した世界ジャンボリーについて、状況や反省点などを振り返ってみたいと思います。

私が参加したのは後半の半期のみでしたが、その初日はフードフェスティバルの日。自隊のサイトに到着すると、白玉団子や麦茶を振る舞う準備をしている所であり、小さなプールに入った水玉風船もプレゼントすると言う。配布が始まると物珍しそうに近寄ってくる外国スカウト達。「Barley tea」だと英語で説明し飲んでもらった冷たい大麦茶、また、甘い蜜のかかった白玉を飲食したスカウトの笑顔から好評だった様です。また、カラフルな水玉風船をゴムひもでヨーヨーの様に遊ぶことは、特に女子スカウト達に好評だったようです。

その日の夕方からはアリーナショー。あらためて書き出してみると、1.中川翔子(しょこたん) 2.安倍晋三首相 3.皇太子殿下 4.DANCE EARTH PARTY 5.野口宇宙飛行士 6.CEREMONY カラーチーム 7.安田レイ(歌手兼モデル)&ピカチュウ 8.アクロバット飛行ショー(室屋義秀)。

なんて豪華な全体集会ででしょうか、日本人スカウトが飛んだり跳ねたり歌ったりと大盛り上がりしていたのはアニソンの中川翔子さんでしたが、

外国スカウトが一番の盛り上がりを見せたのが何故かピカチューが出てきた時だったのは面白いところです。

現地のプログラムは正にスカウト主体、場内のアクティビティーはリーダーが着いて行くことも無く、自隊のスカウトの活動状況を直接知ることではできませんでしたが、スカウト達から見せてもらった写真の数々からは、外国スカウトと肩を組んでいたりと、休憩時にカードゲームに興じていたり、ワールドスカウトセンターでは各国の文化に触れている状況が見受けられました。

私が唯一、スカウト達と同行したのは5日に実施された場外プログラムのコミュニティー。タイガー班は周防大島町の久賀小中学校と地元の方々との交流、現地到着時には久賀引山太鼓の歓迎、引き続き竹とんぼ作りやうちわづくり、海に移動しての地引き網を体験しました。

スカウトの感想は正直なもので「行く前ははずれかと思ったけど、うちの班が一番じゃない」などと大いに楽しんだようです。

アクティビティー以外の普段の生活パターンは朝の食事配給から始まり食事、セレモニーやスカウトズタウン、ゲーム、風呂・洗濯など。

普段なら熟睡しているであろう朝5時からの配給の担当者や、個性的なスカウトが多い各班をまとめた班長には本当にお疲れ様と言いたい。また、セレモニー等の実施は隊長のアドバイスもあったところですが、さすがジャンボリー参加スカウトだと感じられるものでした。ただ、全体的にスケジュール管理や点検時以外の整理整頓など不足する部分も見受けられました。

最後になりましたが、一木隊長をはじめ北川副長、野中副長、石垣副長には大変お世話になりました。そして、113隊のスカウト全員からは素晴らしい活動やエネルギーを共有させてもらい本当にありがとうございましたと言いたいと思います。(市原7団)

23WSJ は“和”

副長 石垣 千草

23WSJ、13日間のキャンプは私にとってもスカウトにとっても未知な



る挑戦でした。他人と一緒に生活できるのは、4日間と言われています。面識はあるものの、13日間のキャンプに精神的に・身体的に耐えられるのだろうか?と、脳裏に浮かんだのが、今では大分前の出来事のようにです。

初めて顔を合わせた時、「今どきの子供たちは、ずい分おとなしいんだな」と言う印象を持ちました。訓練キャンプでも、この子達大丈夫かな?という思いは、継続しました。しかし、3~4か月後には本番です。もう、行くしかない。自分の中では、何故か精神的に余裕があり、不思議なほどでした。長期間の休暇を取らせて頂くにあたり、職場の方々の理解を得られ、一先ず出発となります。

自分の目標は2つ、在り来たりですが、辛くても、いつでも笑顔でいられること。幸い、担当の班はいつでも元気で、毎日笑っていられる事ができました。班員の笑顔に癒される時もありました。他のリーダー達の笑顔にも助けられました。苦しい時に笑い飛ばせるパワー(昔から笑う門には福来たるって言いますね)後半になり隊長から、「苦しい時こそ笑顔であれ」とB-Pの言葉を聞き、自分の思いは間違っていなかったと確信し、お蔭様で最後までやり遂げることが出来たと、本当に感謝しています。

もう一つの目標は、一人として脱落者を出さず、最後まで全員で帰る事。到着してすぐに、今までの環境の違いに体調を崩すスカウト、極暑に負けてしまうスカウト、途中精神

的に追い込まれて体調を崩したスカウト、そして、頑張りすぎてしまい身体的にも疲労が溜まってしまったスカウト、各々が色々な思いをWSJに抱え、精神的にも身体的にも厳しい状況の中で必死に最終日まで頑張り抜いて、一人の脱落者もなく全員が無事に帰ってくる事が出来ました。「みんな、大変だったけど、よく頑張ったね。あなた達は、出来るんだ。一つの事を成し遂げたんだよ!」

目標は、達成できました。ただ、個人の目標でもなくスカウト・リーダーが達成させてくれたように、感じられますが、それでも、今の自分は満足です。

「必ず台風が来るから、覚悟をしておくように」そう言われて、覚悟はしたものの、今回のWSJでは、全く雨が降りませんでした。1回位は降ってほしいと願ったのは、私だけでしょうか?とにかく、暑い・暑い 通り掛かりの外国人が「水を下さい。死にそうです」と通路から入ってきたり、水汲み場では、水と遊ぶ外国人が居たり・・・蛇口を捻ればすぐに出てくる水のありがたさが身に染みしました。ありがとう。命の水でした。と、水にしても、食べ物にしても、ISTの方々、運営の方々、訪問先の方々、隊・団・地区・関わって頂いた全ての方々、共に過ごしたスカウト・リーダーそして、家族。心から感謝いたします。23WSJに参加させて頂いて、ありがとうございました。A~ND・・・(市原5団)

スカウトの感想

髙班

12泊と13日間

班長 常世田 千尋

平成27年7月28日、朝4時。バスに乗って千葉を出た。これから12泊13日を山口県きらら浜で過ごすことを、甘く見過ぎていたかもしれない。

今回、班長として参加した第23回世界スカウトジャンボリー。班長という立場だからこそ経験できたこと、見えたこと、感じたことは多かった。体力的にも、精神的にも、少し成長できたのではないと思う。こんな班長でよかったのかな、ああすればよかった、こう言えばよかったなんてきりが無い。

何もかも置いてきて、諦めて向かった気がしていたけれど諦めきれなかった自分が情けなかった。

日本全国、どこに行っても日本語が通じるのが当たり前で、日本語だけで生きていけた。しかし、あの山口県きらら浜は日本であり、日本ではなかったように思う。様々な言語、文化の人達がいた。日本人以外ほぼ日本語が通じない環境で、世界は広いなと肌で感じられた。それと同時に、日本は本当に狭いなを、今までこんなにも狭い世界の中しか知らなかったんだと思わされた。

暑くて、倒れそうに何度もなった。何人も熱中症や風邪などに見舞われてどうなることかと思っていたが、全員無事に帰れそうで一安心だ。帰ったら寿司が食べたいとのんきに考えていられるのも幸せなのだと思う。日本の良さを改めて知れた。世界スカウトジャンボリーに参加して、参加させてもらえて、本当に感謝してもしきれない。さらば山口きらら浜！ (市原1団)

世界ジャンボリーに参加して

次長 田村 優

私が今回の第23回ワールドスカウトジャンボリーの参加を決めた理由は、二年前の今大会のプレ大会である第16回日本ジャンボリーに参加して、多くの人に出会い、様々な貴重な経験をする事ができ、その時の感動や達成感を再び味わいたいと思ったからです。私は今大会を次長という大役を任

されました。しかし、大役だからといって、不安などは一切感じませんでした。むしろ、世界ジャンボリーで次長をさせてもらえることをうれしく思っていました。決して簡単なことだとは思いませんでした。実際、大変な事だらけでした。しかし、やらなきゃよかったとは一度も思いませんでした。次長から見る班は班長からでは見ることのできない全く別の世界だと思いました。班長が班員に指示を出し、次長がその班員と班長を補佐する。これは班長にも班員にもできない特権だと思いました。

ジャンボリーでは様々な外国人に囲まれてまるで海外にいるような感覚で期待にあふれていました。多くの海外スカウトと交流し、国際的な友人関係を築くことを目標にしていきました。12泊13日の超期キャンプは精神的にも身体的にも過酷でした。暑さにやられ、熱中症になった日もありましたが、毎日楽しく過ごすことが出来ました。

前回と今回のジャンボリーで私は精神的にも身体的にも成長できたと思います。この貴重な経験を日々のスカウト活動や毎日の生活でも活かしていきたいです。そして、後輩スカウトにジャンボリーの楽しさを伝え、全員がジャンボリースカウトになってほしいです。また今回ジャンボリーに参加させていただいた事を親、世界中の全てのスカウト、リーダー、友人に感謝したいと思います。(市原6団)

23WSJ

花房 大地

7月28日、ワールドスカウトジャンボリーが始まった。山口県キララ浜は前の日本ジャンボリーでも来たが、整地されていて前よりもやる事が少なかった。気温はあいかわらず嫌になるほど高かった。昼に空を見上げれば綺麗な青空で、夜には一面の星空が見えました。開会式では有名な人達がパフォーマンスなどをして盛り上がっていました。今回のキャンプで一番めんどろだったことは、自分の隊のサイトから出る時は二人以上で行動しなければいけないことでした。すぐ近くのトイレや飲み物を売っている所にも一人では行くことができなかったため、夜中にトイレに行きたくなくても起きている人がいなかったら行けなかったのはつらかったです。

モジュールでは他の国の衣装や楽器などを見ることができました。フリーな時には外国人とバッジなどを交換しましたが、インドの人達に囲まれていると言われてるのは嫌な思い出になりましたが、おかげで「I never give for India」という文を覚えました。バッジを交換しようとしてもどうしても交換してくれない人もいましたが、意地でもしたこともありました。

このジャンボリーで学んだことは、もっと英語を勉強しなければならないということや、日本人以外はけっこう英語をしゃべれる人が多いということでした。できるならば英語をしゃべれ



るようになって次の24WSJにも参加し世界との交流をしたいです。

(市原3団)

ジャンボリーを終えて

作田 匠海

私がジャンボリーの12日間で学んだことは、コミュニケーション能力の重要さと体力の重要さです。特に前者の方が、私がジャンボリーに行くと大変だったことです。まず公用語が英語とフランス語で、英語自体ほとんど勉強したことのない私には、OKかNG程度しか話せず、自分の意思をつたえるのに、ものすごく苦労しましたし、日本の言葉をそのまま英語に直そうとすると英語には存在しない言葉だったり、そのせいで外国人に話しかける事が少なくなったりしました。

私のサイトの場所はきらら浜の一番端にあるのですが、その反対の場所にあるスカウトショップに行く時に大体40分ほど歩くことになります。それを3日間くらい繰り返すともう動きたくなくなりました。基本、家にこもっている私には普通じゃ考えられないレベルの運動をしていたので体が追いつきませんでした。初めの方は足の皮がむけて痛くて色々ひどかったのを覚えています。最後の方には、疲れすぎて足のことなんてどうでもよくなりました。

このジャンボリーの12日間、もっと色々な事を学びましたが特に重要な事を書いてみました、非常に長いキャンプで、さまざまなトラブルやいざござがありますが、外国人との交流やいろいろなモジュールを体験できて、とても貴重な思い出を作れました。これは一生、残るでしょうし、これからの役に立つはずです。(東金1団)

夏のジャンボリー

内海 祐輔

私には、この23WSJが初めてで、最初は「どんなかんじなんだろう」とドキドキしていましたが、やっていると楽しくてワクワクとドキドキが私をふるわせました。

はじめてのジャンボリーでは、タイムキーパーをやりました。たいへんで隊長におこられたこともあったけど、



とっても身についたと思います。それに最初のころは、何をやればよいのかわからず、班長にどなられました。

ごはんは、二回コゲて二回成功しました。一生に残る思い出として頭の中にインプットしました。そして、一番印象に残ったのが、広島原爆ドームがすごかったです。あの日、何千人何万人という人々が原爆という悪魔によって亡くなりました。叫び声がひびくのをよそうすると耳や頭が痛くなります。

私はもう一つ楽しかったのが、カルチャーです。カルチャーは、色々なことを知れるのがすごかったです。でも、感謝したいのは私が左手をケガしていたのでみんなが手伝ってくれたことです。本当にありがとうございますと伝えたいです。今、乗っている電車はちょっとよいましたが、楽しくやれています。また、このような経験をまた一度やりたいのと、この経験を将来にいかしたいです。(市原1団)

ワールドスカウトジャンボリー

小泉 公輝

初めは、驚きました。昨年、親から、「世界ジャンボリーに行ってみない?」と、言われたからです。私は「行けるなら行きたい。」そう親に答えたが、その時は、まだ二級だったので苦労がたくさんありました。

行くことを決めた私に親は、「手伝える事があつたら手伝うから、がんばりなさい。」と言ってくれたからです。

しかし、学校や部活、他の習い事で、なかなか時間をとれず、時間がある時に、しっかりやらないという、バカをしてしまったので、一級を取得するまでがとても遅くなってしまいました。最終的に一級を取得できたのは、ジャンボリーの一週間前でした。もっと早くしっかりとやるべきだったと反省しています。

ジャンボリー当日、集合が早いので、正直つらかったのですが、早々と母に別れを言って家を出ました。その後、父と別れ、仲間と一緒に太陽も出ていない時間に出発しました。バスや新幹線の中で、夜眠れなかった分、寝ましたが、寝てる写真を撮られました。

ジャンボリー会場のきらら浜に着いた時は、言葉で表せないような不思議な気持ちでしたが、一つ、これからジャンボリーが始まるんだな。と思いました。

そこから始まり、結団式、開会式、モジュール、アリーナショー、閉会式などに、一つ一つに良い思い出が出来ました。特にモジュールの広島ピースプログラムでは、実際に広島に行き、原爆ドームを見たりしたので、とても心に残ってます。

ジャンボリーの13日間はあっという間でした。もっと長いと思っていたのに、本当にあっという間でした。しかし、そう思うほど思い出が出来たので、多額の金を出してくれてジャンボリーに行かせてくれた両親に感謝の言葉と、思い出話をたくさんしたいと思

います。他にもIST、スタッフさん達にも、感謝を忘れません。(茂原2団)

ジャンボリー

永嶋 孝太郎

僕はこのジャンボリーに参加できて、とてもうれしく思っています。なぜなら、外国の人と交流し英語で会話を楽しくできるようにするという目標を達成できたからです。

しかし、僕は自ら外人に話をもちかけることがあまりできず相手から話をしてそれに答えるという結果になってしまいました。

次にジャンボリーでは楽しいことやいいことがありました。一つは原爆ドームなどを見に行ったピースプログラムです。これは原爆の悲しさや物語るものでした。次にアリーナショーです。アリーナショーは皇太子など偉いひともきてその時にジャンボリーはこんなにすごい物なんだなと思いました。

最後に感じたことは、感謝の気持ちです。このすばらしい大会に参加させてくれた親、家族、支えてくれた人などに感謝して、これからのボーイスカウトの活動にこの大会で得た技能を活かしていきたいです。(大網白里1団)

ウグイス班

ジャンボリーの感想

班長 佐藤 嶺

私がこの23WSJに参加してみたいと思ったのはボーイスカウトのころからだ。ただ、前回の16NJには中3で受験もあり参加できなかった。だから、今回の高2で参加する世界ジャンボリーには期待もあったが不安もあった。また、ジャンボリーという長期のキャンプに初参加なのに班長に指名され尚更不安が大きかった。そして世界ジャンボリーに参加した。終わってみればとても早く感じたが、とても充実していた。一つ一つのモジュールやプログラムもやりがいがあり、とても面白かった。だが、やはり外国人がいたこともあり、文化の違いや生活のしかたの違いに苦しんだ。不満を言えばたくさんあるが、全体としてみればとてもたのしかった。

一番楽しかったプログラムはやはり

アリーナショーだった。ビッグゲストの方が多数来られてとても盛り上がった。また、アクティビティはウォーターだ。やはり最終日とあってかとても楽しめた。また、ピースプログラムでは原爆の悲惨さを学び、二度とくり返してはいけないということを再確認した。このように、いろいろなアクティビティがありやりごたえがあった。

私は班長として参加したので、班員をまとめられるかとても不安だったが、みんな指示を出したらその通りに動いてくれてとても安心できた。すこしけんかしてしまうところもあったが、個性的なメンバーがそろった良い班だと思う。

今回のジャンボリーで一番必要だと思ったのは英語の会話力だ。やはり会話が出来なくて悔しかったのが何回もあった。おそらく、このジャンボリーに参加しなかったら英語の会話力が重要だと思わなかっただろう。

今後、この経験を活かして、スカウト活動や勉強、人生などを頑張っていきたいです。(茂原2団)

第23回WSJを終えて

次長 石垣 竜太

僕は、ワールドスカウトジャンボリーに初めて参加しました。参加してわかったことは、外国の人は元気で明るく、とても陽気だということでした。特に自分達の右のサイトのイギリスはとても楽しそうでした。日本のサイトを通るとき「チェリパトール」とあい

さつをしていました。自分達には、意味はまったくわかりませんでした。でも向こうが使っていたので使ってみました。

前のサイトのスイスは、ほとんど一日中寝ていました。朝は9時頃起きてきて、モジュールに行っているようには全然見えませんでした。僕は、「のん気でいいなー。」と思いました。

後ろのオーストラリアはとても元気でした。友達と一緒に、「このタコを使っていい？」と聞いたら、「いいよ」と普通に貸してくれました。高く飛ばしたら、「とてもかっこいいよ。」と言ってくれました。別の所では、もっと高く飛ばしていたので、対抗しようと飛ばしたけれども、相手の方がすごく上手でした。

アリーナショーの時には、中川翔子やEXILEのUSA、安倍総理、皇太子、宇宙飛行士の野口さん、安田レイ、大会ソングの制作者が来ていて、とても楽しかったです。

ジャンボリー中は、一回も倒れなかったです。モジュールは、カルチャーやサイエンス、ワールドスカウトセンターが面白かったです。小さいソーラーカーを作りました。とても簡単でした。次にJNCのブースに行き、エネルギーの研究？を学びました。プチトマトのような物を育てていて、とても甘かったと評判でした。

カルチャーのブースでは、お灸をすえたり、針治療をしたりしていました。治療師に千葉に戻ったら、「針治療受



けてもらいなさい。」と言われました。全身の筋肉が張っているからだということでした。どのブースもとても楽しく、良い思い出になりました。

(市原5団)

第23回WSJを終えて

常世田 尚志

自分は第23回ワールドスカウトジャンボリーに行き、感じたのは、外国人の多さです。日本人はスカウト活動をやっている人は多くはないのですが、今回のワールドスカウトジャンボリーで、スカウト活動をやっている人が多い事に驚きました。

もう一つはその多くのスカウトが、ほとんど英語を話せる事です。自分は、中学校、高校と英語がほぼ全くできません。なので今回のワールドスカウトジャンボリーでほとんどの人が英語を話せていて凄いなと思いました。そして、自分は英語ができないので外国人の話す事が、少ししか分からず、とても悔しかったです。なので帰ったら、英語の勉強をしっかりとやり、4年後行くかどうか分からないけれど24回ワールドスカウトジャンボリーに向けて準備しておきたいと思います。もう一つ感じた事は、外国人スカウトのテントサイトの汚さです。今回外国人のスカウトのテントを2週間見てきましたがゴミはそのまんま、外で寝ていて起きてくるのが8時とか9時とかでした。なのでそういう所は見習いたくないなと思いました。

そして、一番楽しかったのは、アリーナショーです。クロージングセレモニーも良かったけれどやっぱり、アリーナショーが一番楽しかったです。アリーナショーの中でも一番楽しかったのは、ワールドスカウトジャンボリーのテーマソングです。自分はとても興奮しました。その他にもエグザイルのウサヤや三代目や安田レイやしょこたんがきてとても盛り上がりました。

次のワールドスカウトジャンボリーは4年後のノースアメリカですが英語をしっかりと話せるようになってISTとして次も行きたいと考えています。

(市原1団)



ジャンボリーに参加して

小西 あかり

外国人のペンフレンドを作る。私は今回のジャンボリーへの参加が決まった時、これを目標に決めました。この目標は以前、父の転勤の為に住んでいたシンガポールで仲良くしていた友人と連絡が途絶えてしまったという後悔から生まれました。

外国の友達がここでできても連絡を取り合おうという意志が互いにないと連絡は途絶えてしまいます。私は英語があまり得意ではありませんが、連絡先を交換した人達とメールや手紙のやりとりを続けていきたいです。

このジャンボリーで得られたものは友達だけではなく、勇気や自信、そしてたくさんの経験です。

外国人と話すのには勇気が必要です。ジャンボリー開始直後は話しかけられなかったのに、日を追うごとに話せるようになっていったのを実感できました。それは勇気をもって行動することができるようになったからだと思います。

自信も同じように外国人と話すことについていきました。また、早起きをする習慣ができたことや、12泊13日という長期のキャンプを体調を一度もくずすことなく過ごせたという自信、何より、ボーイスカウトをやっているという自信が改めて実感できました。

私は今回のジャンボリーを経験して文化も宗教も国も地域も超えた先に世界が一つになれるということがわかり

ました。平和なよりよき世界という理想を見ることができたと思います。よりよき世界はたと言葉が通じず、たとえ考えが一致せず、たとえ一緒の国にいなくともさらなるよき世界を一人ひとりが目指すことで実現していくものだと思います。

今回のジャンボリーを通して思ったこと、感じたこと、分かったことを周りの人に広めていき、ジャンボリーの楽しさ、ボーイスカウトの楽しさを多くの人々と共有したいです。

(市原7団)

23WSJについて

高橋 友希

ぼくは、第23回世界スカウトジャンボリーに参加しました。第16回日本ジャンボリーとは違い、外国人がたくさんいて、おどろきました。初日は、NJと同じで朝4時集合でした。さらさら浜に着いたら、設営をして一日が終わりました。

二日目は、開会式が行われました。開会式に山口活性学園がテーマソングの「A Spirit of Unity」を歌いました。英語バージョンだったので、歌えませんでした。

三日目からモジュールがはじまりました。その日は、カルチャーとFTAがありました。次の日は、ピースプログラムがありました。戦争の事を学んで、戦争は二度とやってはいけないと改めて思いました。五日目は、ネイチャーだったのですがFTAになりま

した。

六日目は、アリーナショーがありました。たくさんの人がきて、ライブがありました。NJの時よりも面白かったです。

七日目は、GDV (Global Development Village) とFTAがありました。八日目は、FTAとサイエンスがありました。九日目は、コミュニティーがありました。十日目は、ウォーターがありました。人々に大切なものをたくさん学びました。夜は閉会式がありました。思った以上おもしろくなかったのが残念です。サイトに戻るとき、もうWSJがおわっちゃうのかと思いました。

ぼくはこの第23回世界スカウトジャンボリーに参加して、英語のすばらしさを、じっかんしました。その他にも、いろいろな文化を知ることができました。この大会で手に入れたものをこれからのボーイスカウト生活でいかしていきたいです。(市原6団)

23WSJ

秋山 鈴奈

私は初めてジャンボリーに参加しました。ジャンボリーが始まって初めは2週間は長いなと思っていました。でも、中間ぐらいになってだんだんもう終わると思ってきました。閉会式では帰りたくないという思いが強くなっていました。

一日目は朝3時集合だったので1時に起きないといけなかったのでふとんに入って本を読んでねようと思ったら1時で一度もねないで家を出ました。集合場所についたら、ボーイ隊の隊長がいました。バスが来る場所が分からなかったのでみんなでさがしたら、一木隊長がいました。安心しました。バスに乗ったら、ねむられるかなと思っていたら、ねむりませんでした。新横浜についたら、新幹線のぞみ9号にバスから乗りかえました。広島でおり、バスにまた乗りました。現地に着きました。設営をして私たちは寝ました。私たちはBandaiでした。

二日目は開会式でした。ジャンボリーのテーマ曲(A Spirit of Unity)を歌っている人たちが来ました。楽しかったです。

三日目はCultureだったのですが、腹痛でいけませんでした。

四日目は、広島ピースプログラムでした。原爆のせいで多くの人々が亡くなったり、原爆の後に放射能で亡くなった人がいることをあらためて知りました。原爆ドームも見ることができました。

五日目は、Natureの予定だったのですが暑かったので無くなりました。なのでFTAに変わりました。

六日目はアリーナショーでした。しょこたんやDJ、EXILEのUSAなどが来ました。もちろん安倍首相や皇太子殿下も来ました。

七日目は、GDV (Global Development Village) でした。

八日目、九日目といろいろな体験をしました。

十日目は、私が楽しみにしていた、Waterでした。水鉄砲で遊んだり、ビーチバレーをしたり遊泳をしたりしました。楽しかったです。

世界ジャンボリーで学んだことは、外国の人はいつでも笑顔でせつしてくれて、やさしいということがわかった。少しショックだったのが、外国のサイトにゴミがいっぱいあった事です

(東金1団)

ジャンボリーを終えて

坂本 将

私がこのジャンボリーを終えて思ったことが三つあります。

一つ目は「英語力の無さ」です。私

は面接の時などに、「外国のスカウトとたくさん話して、友達を多く作りたい。」と言いましたが、私が言いたい事は英語ではなんと言うのだろうか。と考えていると話することができなかったのもっと英語の力をつけていきたいと思っています。

二つ目は「体力の無さ」です。私は部活がバスケットボールをしているのですが、ジャンボリー中体力が切れてヘトヘトになってしまった事が何度かありました。なので、これからも部活を全力で取り組んでいきたいと思っています。

三つ目は「もっとスカウト技能を身に付けたい」です。理由は、もっとロープワークを早く出来たら早く作業が終わっていただろうな、ということが多くあったからです。なので自団に戻ったらスカウト技能を自分の目標にして活動していきたいと思っています。

次にジャンボリーで一番うれしかった事を書きたいと思っています。それは、ハブオフィスでおこなった「やっさいもっさい」です。なぜうれしかったかというと、私たちが最初にやって、私が「Come here!」と言ったら外国人の人が来てくれたからです。その時、やっぱりスカウトは全員友達なんだな、と思いました。今回のジャンボリーはすごく楽しかったので、NJやWSJにまた参加したいと思っています。

(大網白里1団)



カピバラ班

23WSJ

班長 桑谷 航平

今回初めてジャンボリーを経験し、また初めて班長を経験しました。初めて尽くしのジャンボリーでしたが、班員は全員がダウンすることなく終えたのでよかったです。

最初に班で集ったとき、自分が班内で一番年上と知り、班長をやることになってとても驚きました。その後君亀でキャンプをしたとき四班の中で一番最初にカレーを作ることができ、そして失敗することなくでき、優秀を取ることができたことが印象深く記憶に残っており、とても嬉しかったです。

でも、次のキャンプからは、失敗することが続き挙げ句の果てにはジャンボリーのバスに遅刻しました。そのとき「自分は班長なのになんて馬鹿なことをしてしまったんだろう」と思い、恥ずかしさや、悔しさといった感情がでてきました。もう二度とこんなミスをしたくないと心に強く思いました。

ジャンボリーが始まって最初のモジュールでは、どういうことをすればいいかよく分からずあたふたしてしまい、班員を困らせてしまったことに強い責任感を感じました。しかし6日、7日では二日連続でテントきれいと言う理由といつも笑顔と言う理由で優秀班を取ることができたことが嬉しくて少し自信が付きました。ジャンボリーで一番楽しかったことはウォーターモジュールでのビーチバレーや海で泳ぐことです。体を動かすことができ気分転換になりました。

今回のジャンボリーでは失敗など多くしましたがとても良い経験になりました。今後この経験を生かして頑張っていきたいです。(市原1団)

23WSJ を終えて

田島 光華

私は、ジャンボリーに参加し、今までに無い多くの事を体験することができ、とても新鮮でした。16NJに参加しなかったの、知り合いが同じ班にいない、また12泊13日の長い間キャンプをすることがとても不安でした。ですが、とても元気で明るい班だったので、楽しい生活をする事が出来良



かったです。

会場は、日本ですが外国人の方が多く英語が苦手な私にはとてもつらかったですが、とてもフレンドリーな方が多く、たくさん交流ができました。目的目標の達成は出来なくて残念でしたが、仲良くなった外国の方達と別の場所であった時も話をすることが出来たので、連絡が出来る人には、この後メールなどのやりとりをしたいと思っています。

モジュールでは、班で活動し、普段できない事ができ楽しかったです。GDVでは、子供が働いている事を知り、カルチャーでは、他国の文化に触れ、サイエンスでは、最新技術を学び、ウォーターでは、水遊びをしました。コミュニティーでは、小学校で小学六年生とお紙をし、その後ゴミ処理場で「もったいない」について学び、ピースでは、広島原爆について学び、宗教は、仏教について学びました。ネイチャーは、出来なくてとても残念でしたが、どのモジュールも勉強になり良かったです。

今日学べた事は、作文に書ききれない程あります。この貴重な体験をこれからの活動にいかしていきたいです。また、活動中に見つけた課題を達成できるようにしたいです。(東金第1団)

楽しすぎたジャンボリー

高山 力也

7月28日から8月9日まで山口県きさらぎで162ヶ国のスカウトが集

まってキャンプをする第23回世界スカウトジャンボリーにぼくは参加しました。ぼくはこの大会をととても楽しみにしていました。

まず一日目は朝早くから移動して山口県きさらぎにきました。その後、せつえいをして、日本派遣団結団式を行い決意をかため、その日はつかれていたのですぐねました。二日目はまずせつえいの残りをやり、開会式に参加しました。より世界ジャンボリーへの意識が高まりました。二日目はまわりが外国人ばっかなのでとてもびっくりした一日でした。三日目はカルチャーがあり世界の色々な文化を知ることができました。後、外国人ともたくさん交流しました。四日目、五日目は四日目は広島ピースプログラムで戦争のことがよく知れました。五日目はプログラムがなくなり、外国人のスカウトとたくさん交流できました。六日目はアリーナショーやフードフェスティバルがあって一番楽しい一日でした。七日目はGDVで地球環境のことがよく分かりました。八日目はサイエンスでウイグレットにのったりしてとても楽しかったです。九日目はコミュニティーで色々な人たちと交流してとてもいい経験でした。十日目はウォーターで水にふれて、とても楽しかったです。十一日目はフリータイムアクティビティで外国人とたくさん交流をしました。十二日目はてつえいと片づけしました。ぼくはこの世界ジャンボリーを終えて、まずスタッフ、日本に来てく

れた外国人スカウト、隊長、副長に感謝してこれから活動をしていきたいです。後は、外国人と交流したこと、仲間と共に笑ったこと、つらい思いをしたことなど世界ジャンボリーの経験をこれからの学校生活、ボーイスカウト活動に生かしていきたいです。

(市原1団)

23WSJ で学んだこと

渡邊 みなみ

『和：A Spirit of Unity』これは今回の23WSJのテーマです。大会が始まる前、私はまだ、この意味がよく分かっていませんでした。しかし、大会が終了した今、振り返ってみると、このテーマに込められた思いがよく分かるような気がします。

大会が始まって最初の頃、カピバラ班はその名のとおりバラバラな班でした。集合が遅かったり、意見が食い違ったり・・・正直不安でした。でも、モジュールに参加したり、フリータイムアクティビティで違う国のサイトに行ったりするうちに、それぞれの性格が分かってきて、認め合えるようになりました。そうして協力していくうち、優秀班をとる回数も増えていったのです。こうして、Unity - 調和の大切さを学びました。

また、このWSJでは様々なイベントがあり、それもまたいい思い出になりました。特に印象的だったのは外国のスカウトとの交流です。私の目標は『名刺を60枚交換する!』だったの



ですが、用意した枚数が少なかった為、達成することができませんでした。だから、一人一人しっかり会話をして、仲を深めようと思ったのです。しかし、なかなか通じず苦労しました。でもあきらめず話す努力をし続けたので会話が成立した時は本当に嬉しかったです。そして、連絡先を交換できた外国のスカウトもいるので、これからメールのやりとりが続くといいと思います。

WSJを通して、私は色々な事を学ぶことができました。挑戦する心、協力する気持ち、あきらめないことの大切さなど。これはどれも一人では得ることができなかったものです。仲間がいて、リーダーの方々がいて、I S Tやスタッフの方々がいて、そして家族がいたからです。支えて下さった方々に

感謝して、WSJでの経験を活かしていくと共に、『和』をこれからも大切にしていきたいです。(茂原2団)

最高のWSJ感想

小坂 駿斗

自分は7月28日から8月9日の12泊13日で行われたWSJに参加しました。自分の班の役割はタイムキーパーでした。時々声が小さくて伝わってなかったりして納得のいく結果が出せず心残りです。

開会式の日、これからやっとな始まるのかというワクワクと13日間もさすがにいれるのかという不安がありました。最初のゲストに山口活性化学園が来てとてもびっくりしました。とてもはしゃいでいたのでその日はぐっすり寝れました。

カピバラ班はとても楽しい班で、すごく笑顔が多かった班だなと思いました。FTAやちょっとした休憩でも、皆楽しくわいわい話したりしていました。

アリーナショーではずっと飛びはねていました。たくさんの有名人が来てライブようになっていたので、タオルやチーフを使って回して飛んですごく盛り上がっていました。アリーナショーでは隣にいたフィンランドの隊の人とも仲良くなり一緒に写真をとったりしてとてもうれしかったです。

閉会式ではもうこれでWSJも終わってしまうのかと少しさびしくもありましたが、皆が一体となって大会ソングや三本じめなどをやって、離れて



いても世界の中の一人としてつながっているんだなと思ひ達成感がありました。そして最後の花火はとても壮大でさらに達成感を感じました。

このWSJを通して、それぞれの国や地域で異なる言語や、服装など色々違うところはあるが、別にそれは特に関係のないことで、一体になったり協力しあったりすれば、友情だったり平和などたくさんの事に発展できるなと思ひました。

I S Tの方々がすごく支えてくれていたという話を聞いたので、今度はI S Tに参加をして体験してみたいです。(市原3団)

23WSJを終えて

石川 佑樹

23ワールドスカウトジャンボリーを終えて思ったこと、感じたことは、世界の人々と交流をして、世界の人々がどんな人なのか、わかったきがします。外国人は、とても優しく、気軽に話しかけられて、自分は英語が苦手、あまり交流ができな思ひたけど外国人スカウトの人は、それを理解して、ジェスチャーを使って、わかりやすく、話してくれた、外国人スカウトといっばい話せました。

だけど今も、外国では戦争をしている国があつて、多くの人々が亡くなつていますが、ジャンボリーでは、世界の人々と活動を通し絆を深めていって、人種差別も、争いもない、平和で、とても楽しかったです。そして、ジャンボリーがきっかけで、世界の人々が他の世界の人々のことを理解をし合つて、人種差別も争いもない、平和な世界になつてほしいです。これからも、ワールドスカウトジャンボリーで、外国人スカウトの交流を深めたいと思ひます。

今回の23ワールドスカウトジャンボリーで一番楽しかったことは、アリーナショーと、閉会式です。なぜかといつと、アリーナショーは、スペシャルゲストがきて、外国人スカウトと一緒に歌つたり、踊つたりして、とても楽しかったのが、とても印象に残っています。閉会式は、マーティー・フリードマンがきて、とても楽しくて、印象に残っています。

兄にワールドスカウトジャンボリーは、とっても楽しいよと聞いて、ワールドスカウトジャンボリーに来て、兄の言うとおりに、とても楽しくて、よかつたので、今回の貴重な経験を活かしていきたいと思ひます。(大網白里1団)

23WSJを終えて

山口 聖斗

ぼくは23回世界スカウトジャンボリーに参加しました。バスからおり、周りをみたら、外国人だらけでびっくりしました。ぼくは、日本ジャンボリーには、参加していなかつたので、不安でした。

ぼくの目標は、50人以上にサインをもらうことでした。その目標は、達成できたので嬉しかったです。

アリーナショーでは、ジャンボリーでいちばん盛り上がりました。中川翔子や三代目J Soul Brothers、EXILEなど、さまざまなスペシャルゲストが来て、びっくりしました。そして、安倍総理大臣と皇太子が来ました。

モジュールでは、普段では、体験できない事ができたのでよかつたです。

外国人との交流は、相手に自分の意思を伝える事が難しく、ジェスチャーも大事だとわかりました。また、交換品のやりとりも、難しかったです。

ぼくが一番ビックリしたのは、キャンプ中に、一度も雨が降らなかつたことです。とてもびっくりしました。フードフェスティバルでは、色々な外国の料理が食べられてよかつたです。国に

よつて、色々な特徴があることがわかりました。とても不思議な感じでした。閉会式では、外国人といっしょに楽しく盛り上がりました。一部疲れぎみの人もいましたが、楽しくできたのでよかつたです。

この世界スカウトジャンボリーで学んだことは、仲間と協力することや、英語の大切さが、とても重要だと思ひました。

次の世界スカウトジャンボリーは、アメリカでやるので、いってみたいです。(茂原2団)

タイガー班

世界ジャンボリーという場所

班長 中島 七海

初めてきらら浜に着いて見た時の気持ちはを私は一生忘れないと思ひます。広い駐車場に多くの人がある。しかしその中にいる日本人はごくわずかで、自分達以外はみんな外国人。それも一カ国だけなら経験した人もいるだろうが、何カ国もの人がいて、様々な言語が飛びかっている状況。それを見て私は驚きというよりも不思議と胸が高まるのを感じた。

その胸の高まりは日に日に増していった。最初に自分のサイトに着いた時は点々とまばらだつた外国隊も二日目になるとほとんど埋め尽くす位になつていった。道行く人がみんな外国のスカウトで、彼らのサイトでは自分達とは違う文化の生活が営まれている。発見ばかりの毎日だつた。





そんな中でも少しずつ馴れていくものもあった。それは英語だった。元々私は英語が全然得意ではなく、むしろ嫌いな部類の科目だった。今回のジャンボリーもそれがずっと気がかりで、どうせ話せないし失敗しても恥ずかしいからいいやと思っていた。すると自分の後輩達がいつの間にか楽しそうに外国のスカウトと話したり、物を交換する姿が目につくようになった。そんな日々を過ごす中で未だに失敗が恥ずかしくて話せない自分自身が恥ずかしくなり、やっとのことで交換をしに、通りすがった外国のスカウトに「ハロー」とカタコトのあいさつをしたら、相手が笑顔で返事を返してくれた途端に一気に肩の荷がスッと下りたような感覚になった。そこからはもう外国のスカウトとの交流が楽しくて仕方がなかった。それは英語力が上がったとかの話ではなく、英語を“言語”として認識できたからだと思う。

世界ジャンボリーという場所は本当にすごい場所だと思う。何十カ国もの人がお互いの文化を尊重して生活する、そんな未来の世界の手本となるような空間に自分がいたことに心から感謝をしたい。(市原6団)

23WSJ を終えて

次長 長嶋 亨

僕は、今回のジャンボリーでジャンボリーに参加するのは二回目でした。今回は次長として参加したので、16NJとはまた違ったジャンボリーになりま

した。

印象に残っているのは、外国人の考え方、文化の違いです。隣のスイスの隊では、毎日、食堂フライの下で雑魚寝だったり、自分の隊が朝食を食べる頃に起床してくる事や とてもフレンドリーな事に驚きました。でも外国人のフレンドリーさは、日が経つうちに慣れていきました。大会期間中は班運営の難しさをひしひしと感じました。この仕事は誰に振れば良いのか、どうすれば円滑に進むのか、班長をどうサポートすれば良いのかなど、考えることはたくさんありました。でも、日が経つにつれ、班員が少しずつ成長をしていく姿にやりがいも感じました。指示をしたら動いてくれた班員や、いつも班をまとめてくれた班長にはとても感謝しています。

ジャンボリーで得たものはたくさんあると思います。新たな友達や、外国人との交流で得た交換品もそうですが、ジャンボリーでした経験すべてが、かけがえのない宝物になりました。ジャンボリーの雰囲気、外国人との交流、アリーナショーなども忘れられない思い出です。

最後に大会運営に関わってくださった全ての人やリーダー、親に感謝しようと思いました。また、次も、その次のジャンボリーも何らかの形で参加したいと思いました。とても楽しく、思い出にのこるジャンボリーになって良かったです。(市原1団)

23WSJ

進士 翔

私は7月28日から8月9日のあいだ23ワールドスカウトジャンボリー(23WSJ)というのに参加しました。そして、たくさんの事を学びました。たくさん学んだ中で三つの事を書きたいと思います。

一つ目は、辛い時こそ笑顔という事です。今まで私は、辛いと辛いと言う顔をしてしまい、いつも周りから心配をされていました。ですが、辛い時に笑顔になればなんでも乗り越えられるという事を覚えました。なのでこれからは辛い時こそ笑顔で乗り越えようと思います。

二つ目は、人があつまればテンションも自然に高まるという事です。いつも人がいてもいなくてもテンションが異常に高くいつもウザイと言われるぐらいテンションが高いのですがアリーナなど人がたくさん集まればみんなテンションが高まるという事を覚えました。

三つ目は、友情です。みんなで力を合わせれば何でも乗り越えられるということを知りました。

ほかにもたくさんの事を覚えました、ですのもっとたくさんの事を覚え、頼りにされる一人のスカウトになろうと思います。

今回ジャンボリー会場だった山口のきらら浜という場所に感謝をたくさんし、これからも立派なスカウトをめざして頑張っていこうと思います。

(東金第1団)

世界ジャンボリーの思い出

大室 琢満

ジャンボリーでは色々な思い出がありました。

一番印象に残っていることは閉会式で、花火が上がったことです。

ステージのすぐ後で打ち上げられていて、とても迫力がありました。

フリータイムアクティビティの時も楽しかったです。モジュールアクティビティで何かプログラムがある時はつらかったのですがF T Aの時は他のサイトに行ったりシャワーに行ったり、スカウトショップに行ったり、寝たり、だらけられるので良かったです。外国

の人と交流するのが楽しかったです。ワッペンを交換したり、バッジを交換したり、ネッチリングを交換したりしました。また最初は「あなたはどこの出身ですか？」を What's で聞いていたのですが、途中からきづいて Where に直しました。What's の時は相手が答える時不自然にしていたり、ひかっていたのはこのことだったのかと思いました。また、マルキューの近くで店を開いた時はワッペンが次々と交換されていったので楽しかったです。帽子をかぶって歩いていると「交換してください」と言われることが多かったです。特にタイの隊と交流をした次の日にタイの人と話した時は楽しかったです。理由はいままでは英語が上手く話せなくて悔しい思いをしたのですが、タイの人と話した時は少しましだったからです。相手の人も楽しそうに話せたからです。でも、「飛行機で会場にきたのですか？」をプレーンと言っても通じなかったのがなぜだかわかりませんでした。シャワーを浴びた後、埼玉5隊の人に話しかけられて話をして楽しかったのですが次の日シャワーを浴びたらまた5隊の人が居て驚いて盛り上がりまして楽しかったです。初対面の人に話しかけたり、かけられたりしたので人見知りしなくなったような気がします。(茂原2団)

世界ジャンボリーの思い出

鈴木 紘平

条件「1級以上」。その条件が自分を変えた。今まで、誕生日の都合で参加できないはずであったが、まさか条件が変わるとは思わなかった。ぼくはそのために2級を取り、そして1級キャンプもがんばった。その結果、晴れて1級になった。そしてあっという間であり、出発の日まで流れるように過ぎ去った。

そして出発前日、持ち物の最終確認し、寝ようと思ったらなかなか眠れずに、結局11時に寝てしまった。

そして全てのモジュールを終え、8月9日(つまり今日)をむかえた。そして今新幹線に乗っている。このジャンボリーで得た物を考えてみた。

心の中では、友情？ワッペン？交流？「いや違う。一番得たのは、人生



の変わりを得たんだ。」自分はそう思った。このジャンボリーは自分の人生を大きく変えてくれた物であった。ジャンボリーで一番楽しかったことは、夕食作りである。一番大変だったのは閉会式の前の体調不良である。そして、みなさんおつかれさまでした。

(市原3団)

23WSJ を体験して

花澤 柁真

僕は、23WSJ が日本でやるのを知って、「このWSJ は行こう」と思いました。

ただし、WSJ に行くには、1級の取得と技術が必要で1級挑戦キャンプを行った。1級挑戦で技術をみがき、僕はWSJ にのぞみました。

23WSJ の会場は、山口県のきらら浜で行われました。朝早くバスに乗って新横浜に行き、新幹線を使い広島まで行きました、山口県についたら、7月28日～8月9日の2週間のジャンボリーが始まりました。

ジャンボリーではいろいろなモジュールがありとても楽しみでした、しかし、いろいろなハプニングがありモジュールの2つができなくなりとても残念でした。しかし、残ったモジュールはとても楽しくWSJ を行ってよかったなと思いました。ジャンボリーの途中には、アーナショーなどとても楽しいイベントがあり、とても楽しかったです。

8月9日になり、ジャンボリー最後

のセレモニーを行いました。セレモニーのスカウトタウンでは、隊長が行ってくれ感謝の気持ちを持つということと、この23WSJ はこれからの訓練だということを学びました。ぼくは、これらのことを心にとめてこれからをすごしていきたいです。

(大網白里1団)

23WSJ に参加して

倉知 慶輔

僕は、23WSJ に参加して5つのモジュールに参加しました。ですが、僕は、コミュニティーのモジュールの途中で、体調をくずしてしまい。地引アミと、ウォーターモジュールが参加できませんでした。ですがすぐに体調を立て直し、39.0度の熱を完治しました。開会式では、ライブや花火が上がり、みんなとても盛り上がりとても楽しかったです。その後の撤営では、夜にビンゴ大会があり、僕は最後のほうでビンゴになり、シャボン玉をもらいました。

そして、かえりの新幹線では、アイスクリームを2つ買い、一つが少し溶けすぎてしまいました。僕はこの23WSJ で仲間や、感謝の心の大切さなど、とても大切な事をたくさん楽しく学べたと思います。なので、僕は、仲間やリーダー方や、ISTの方や、様々な方に感謝し、その事をここに記します。

(市原1団)

0113隊 (千葉5隊)			
(隊指導者)			
役務	氏名	所属団	備考
隊長	一木 通夫	市原1団	
副長	北川 修次	市原3団	前期
副長	野中 美和	袖ヶ浦1団	
副長	土橋 一弘	市原7団	後期
副長	石垣 千草	市原5団	
①鷹 (とんび) 班			
役務	氏名	所属団	隊
班長	常世田 千尋	市原1団	V S
次長	田村 優	市原6団	V S
健康安全	茂木 なつみ	君津2団	V S
備品	花房 大地	市原3団	V S
配給	作田 匠海	東金1団	B S
レク	泉 容仁	君津2団	B S
タイム	内海 祐輔	市原1団	B S
環境	小泉 公輝	茂原2団	B S
配給	永罵 孝太郎	大網白里1団	B S
②ウグイス班			
役務	氏名	所属団	隊
班長	佐藤 嶺	茂原2団	V S
次長	石垣 竜太	市原5団	V S
配給	常世田 尚志	市原1団	V S
備品	小西 あかり	市原7団	V S
環境	高橋 友希	市原6団	B S
レク	秋山 鈴奈	東金1団	B S
タイム	中島 健太	君津2団	B S
配給	福山 朝日	君津2団	B S
健康安全	坂本 将	大網白里1団	B S
③カピバラ班			
役務	氏名	所属団	隊
班長	桑谷 航平	市原1団	V S
次長	望月 光	袖ヶ浦1団	V S
健康安全	田島 光華	東金1団	V S
備品	高山 力也	市原1団	V S
レク	渡邊 みなみ	茂原2団	V S
タイム	小坂 駿斗	市原3団	B S
配給	石川 佑樹	大網白里1団	B S
配給	秋葉 大輝	君津2団	B S
環境	山口 聖斗	茂原2団	B S
④タイガー班			
役務	氏名	所属団	隊
班長	中島 七海	市原6団	V S
次長	長嶋 亨	市原1団	V S
配給	栗原 耕希	袖ヶ浦1団	V S
配給	進士 翔	東金1団	V S
タイム	大室 琢満	茂原2団	B S
レク	村松 亜里沙	君津2団	B S
健康安全	鈴木 紘平	市原3団	B S
環境	花澤 柗真	大網白里1団	B S
備品	倉知 慶輔	市原1団	B S

第115隊 (千葉7隊) スネーク班
第23回世界スカウトジャンボリー

小泉 由輝

「お前だけ上総じゃなく他の地区に所属してもらうから。」ジャンボリーに向けての訓練キャンプが始まる間近、原隊長から電話で言われた言葉だ。もちろん動揺を隠しきれなかったし、正直嫌だった。16NJで共に過ごした仲間と行けなく、すでに訓練が始まっていた他人だらけの隊に行かないかといけないうる。受け入れられる方がおかしいと当時は思った。不安しかなかった。最高学年としての参加だが同年は女性2人だけに加え、年下の班長、上班の下で活動するのだから、変に敵意をもたれないか、仲間外れがあるのではと気が気でなかった。そんな中1回目の訓練キャンプが行われた。一言でいうなら心配なんかいらなかった。班員は気さくに声をかけてくれ、私は班員にすぎないが陰からサポートもできていたと思う。訓練は1泊しかなかったが、この隊ならやっていける、そう思えた。何回かの訓練を行い、我々はついに現地入り。興奮と期待でいっぱいだった。文字数が限られているので多くは書けないが、一つ、「来てよかった」そう思えた。外国隊と一緒に夕食をとったり、プログラム中に旧友との再会を果たしたり、何よりも



隊の中、班の中での友情は一層深まったと思う。日々技能が伸びる後輩や性格が明るくなったスカウト、最年長としてWSJを通じ成長している後輩を見られたのが一番嬉しい。自分自身も成長できた。隊付とはどういうものか、班員の立場から見る班長。この機会に得た貴重な経験は原隊の活動に活かすつもりだ。

「和」今大会のテーマだ。争いなどが絶えない中、いかに協調性をえるか、世界の人々が一つになり、平和を望む。様々なプログラムやイベントに参加して、色々な人と過ごす中で、テーマを実感できた。あのジャンボリー会場の平和がスカウトを中心に世界中へ影響するのを心から願っている。

最後に一言。ジャンボリー最高！！
 (茂原2団)

ホストファミリー ～スカウトの感想～

23WSJ 支援活動の一つとしてホームステイが行われ、上総地区ではタイ国派遣団から20人を8月8日から10日まで、8個団10家庭で受け入れました。

小学校6年 楠瀬 響介

ホームステイはすごく楽しかったです。うちに来た3人はとても明るく、良く食べ、料理は残りませんでした。すごいなと思ったことは、いろいろありますが、日本語が話せる人がいて、その能力に驚きました。あと買い物をたくさんしていました。3人とも、日本の食べ物や文化を楽しんでもらえて良かったです。やりがいがありました。
 (市原3団ボーイ隊)

小学校3年 楠瀬 琴美

日本語をしゃべってくれて、うれしかったです。タイ語は「あ」行だけで22文字あることが、驚きました。お菓子の作り方を教えてあげたり、折り紙を折ったり、バーベキューや流しソーメンでたくさん人が集まって、とても楽しかったです。
 (市原3団カブ隊)



伊藤 隆大
 ぼくは、初めてホームステイの人が来ることを知って、どんな人たちが来るのかとてもワクワクしていました。市原南ICターミナルで初めてお兄さん達に会ったときは、これからどんな楽しいことをしていくのか想像しながら車に乗り、お互いの紹介をしました。2人のお兄さんの名前は、シンさんとピーさんと呼んで下さいと言われました。途中Tマートに寄って買い物をしました。いなりずしを食べたいとのこと、買って帰り、食事をしながらいろいろ説明をしたり、荷物の整理をして、少し休んでから夕食を食べて七時半ごろ丹治さんがさそってくれた戸田地区の盆おどりに行きました。みんなといっしょにおどりをおどったり、わなげや金魚すくいでゲームをして遊びました。とても楽しかったです。
 次の日は市原第3団の楠瀬隊長のお宅で茶道を教してもらいました。お茶もおかしもととてもおいしかったです。

それから流しそうめんとすいか割りもして、20人以上の人たちが大盛り上がりでとても楽しい思い出になりました。
 終わってからお兄さん達と買い物に行き、いろいろなお土産を買って、時間があつたので小湊の誕生寺を見に行きました。お寺は日本の文化的なもので、お兄さん達は「すごい」と言っていました。帰りにレストランで食事をし、家に帰り、お兄さん達とオセロやチェス、しまいにはテレビゲームをやってみました。
 いよいよ最後の日、ぼくはとてもさびしい気持ちになりました。そしてお兄さん達の旅の安全をいのり、高滝神社にお参りをし、ダム近くのレストランでお昼を食べながらお別れのあいさつをしてお互いに手紙をする約束をして市原南ICターミナルに送って別れをしました。さびしかったけどいい経験をしたと思いました。

(市原5団ボーイ隊)

平井 汐織

私の家にはタイから二人の女の子が来ました。1日目は一緒にスーパーにお買い物に行って手巻きずしをしました。2日目の夜はお好み焼きパーティーでした。カブ隊の友達を呼びました。他の団の人とお買い物に行った二人を集合場所まで迎えに行ったら居なくて心配になりました。家に帰ったら二人がいてびっくりしました。みんなでトランプをしている間に、お好み焼きが出来てみんなで食べました。とても楽しい二日と半日でした。

(大網白里1団ボーイ隊)

平井 暁陽

僕の家には、二人のタイ人のお客様が来ました。名前はフォンとイチコです。一日目は、トランプを一杯やりました。ババ抜きと神経衰弱をやりました。夜ご飯は手巻きずしを食べました。お刺身等を入れて食べました。二人も美味しそうに食べていました。二日目もトランプを楽しくやりました。夜はお好み焼きパーティーをやりました。お好み焼きも美味しいと言っていました。三日目の朝にチーフ交換をしました。タイのチーフは紺色で、とても格好いいチーフだから嬉しかったです。チーフリングやワッペン、バッグ、ティーシャツも貰いました。カッコいい物がもらえて、とてもうれしかったです。お別れのときは、さみしかったけれど、とても楽しい二日と半日でした。

(大網白里1団カブ隊)



くまスカウト集会

6月6～7日、月出野外活動施設で、くまスカウト集会が、スカウト23人（4班編成）と指導者・奉仕者45人の参加で、開催されました。

スカウトの感想

山川 莉央

最初の班発表はドキドキした。仲良くなれるかはわからないけど私は組長になりっこうほして組長になった。夕食はカレーで、一からまきで火をおこした。もちろんごはんもたく事からやった。それぞれ分担をして、私は野菜を切り、ほかのみんなは火の番をしてくれた。そしてカレーが出来上がりみんなでお食べた。とてもおいしかった。おかわりもして完食した。キャンプファイヤーでは、歌に合わせておどったり、うたったりした。とても楽しい時間を過ごした。2日目のハイキングでは、アップダウンのはげしい道なき道を歩いた。

つらい思いもしたけど、組の仲間と仲良くなれたので良かったです。

(市原6団)

高橋 彩佳

私はホース班の班長をやり、一番心に残っている事はハイキングです。途中、森の中に入って『本当にこの道で合ってるの?』と不安になった時は、



みんなで『大丈夫!』と声をかけあったり、班の人が転んでしまった時は、励ましあいながら進んでゴールしました。これからも協力することを大切にしていきたいです。(市原6団)

岩木 吾磨

くま集会では知らなかった子が沢山いました。僕は4組になり楽しい子がいて、すぐに仲良くなりました。

旗作りはみんなが自由に絵をかき面白くて笑いました。組の名前は、4-8ベアーズ。くまの絵だけがまともで、決めました。組長は、ほくがりっこうほして、なりました。

ごはんは、野外で食べたカレーは美味しかったです。スタンプももりあがりました。よく日ハイキングで多くの

種目をして、ゆうしゅう組になりよろこびました。アケイラメダルをもらい、二日間楽しかったです。(市原7団)

平島 一輝

ぼくたちは、月出野外活動施設に行きました。ぼくはウルフ班の班長になりました。

ハイキングでは、地形図にのっている道を草などをかきわけて進みました。そこでは、鳥のさえずりや虫の鳴き声も聞こえました。ときどき、左右どっちもがけで、道はぼがせまいところもありました。そして、少しほそうされた所で「あっ!」リスがかけぬけていくのを見ました。楽しかったくまキャンでした。(茂原2団)

日本ボーイスカウト千葉県連盟上総地区

千葉県内にはボーイスカウトの110個団の団があり、6,903人（平成27年10月現在）が活動しています。また、県内を11地区に分け、我が上総地区もこの11の地区の一つです。上総地区には8個の団が所属しています。

団名	活動地域	入団等問合せ先	電話番号
市原第1団	市原市八幡宿、五井周辺	田中 秀近	0436-21-3840
市原第3団	市原市国分寺台周辺	河崎 哲夫	0436-43-2226
市原第5団	市原市牛久周辺	藤代 良彦	0436-92-0034
市原第6団	市原市辰巳台、ちはら台周辺	齋藤 敏子	0436-75-0392
市原第7団	市原市姉崎周辺	菊池 由紀	0436-62-4004
茂原第2団	茂原市、長生郡周辺	青木 勇	0475-23-9239
東金第1団	東金市、山武市、山武郡周辺	山下 博行	0475-55-0204
大網白里第1団	大網白里市周辺	奥貫 誠	0475-72-7988